

遊技産業14団体

賀詞交歓会を開催

パチンコ・パチスロ産業の業界14団体は1月27日夕刻から、新橋第一ホテル(都内港区)において共催による賀詞交歓会を開催した。業界関係者約300名余が一堂に会するとともに、警察庁生活安全局保安課から、加藤保安課長、玉川課長補佐。そして、柳澤常務(保通協)を来賓として迎えた。

午後5時45分、開会となった賀詞交歓会。まず、各団体の代表者が紹介され、14団体が壇上に登壇した。そして、14団体を代表して、原田實理事長(全日遊連)、石橋保彦副理事長(日工組)、里見治理事長(日電協)が挨拶をおこなった。

○原田理事長(全日遊連)

この14団体は、業界に携わる関係者、企業の代表が一堂に会し、和気あいあいの中、明日に向かって健全な業界づくりに、杯を交わすことができることを大変に有意義なことであると感じています。昨年3月11日、東日本大震災そして福島第一原発の事故等で、被災された方々の住み慣れた環境が一変してしまいました。

多くの尊い命が失われ、今一度、冥福をお祈りしたい。災害に対して、私たち業界14団体は連携して、50億円余の義援金を拠出。ボランティアでは、多くの人材を派遣して活躍



深谷会長(日遊協)



里見理事長(日電協)



石橋副理事長(日工組)



原田理事長(全日遊連)

いただいた。私どもの業界は、健全な営業、日本独自の大衆文化として、取り組んできているところ。今後も

引き続き、一般社会から大衆娯楽という認知をさらにいただけるよう、業界挙げた健全化への努力を今一度誓い合いたいと思います。行政ご当局から、業界のこれからの道筋への御指導をいただいた。この場を通して、辰年にあやかり、さらに飛躍の年にして参りたい。

○石橋副理事長(日工組)

悪夢のようなあの「3・11」から10カ月余。私たちの記憶からは消えていない、また消えてはいけない。自然現象、天変地異に対して、私たち人間は、避ける事はできません。ただただ備えるのみ。私たちの業界今、逆風が吹いている。私はこの現象は、自然現象ではない。我々が英知をもつて、この逆風の原因をつきとめ、業界の明るい未来を作るため、健全化の取組みを、皆さんで努力しようではありませんか。明けない夜はありません。春の訪れを強く信じています。

○里見理事長(日電協)

パチスロメーカーの代表として、今年、遊技業界に貢献できる事はなだらうかと、年頭に際して思っています。昨年、たいへんに厳しい状況の中でしたが、一昨年と比べて、少しずつではありますが、販売台数の伸びとともに、お客様にも支持を

いただけた1年だったと思つています。諸課題がありますが、今年は、(日電協)組合員がひとつとなつて、遊技性のある、かつ、過度な射幸性にならないような遊技機を、英知を絞つた中で、提供していきたいと、それが、業界の発展につながると使命を感じています。

○加藤課長の挨拶(要旨)

来賓祝辞に移り、加藤課長は14団体挙げた健全化への取組みを強く要請し、それに平行した取組み強化を誓った。

ばちんこは、我が国の代表的な娯楽として親しまれておりますが、その一方でめり込みに起因すると思われる各種問題、不正遊技機事案が跡を絶たないなど、依然として健全化を阻害する要因が残されているのも事実であります。このような状況の中、当局では、これまでも法令の施行を通じて著しく射幸性の高い遊技機を規制するとともに、不正改造事案に対する取締りを推進してきたところであり、一方、業界の皆さま方におかれましては、経済不況が続く中一円ばちんこに代表される遊技料金の低価格化やより射幸性の低い遊技機等の開発を進められ、お客様が手軽に安く安心して遊べ



西原代表(RSN)



加藤課長

る環境作りに努めてこられたところであり、これらのご努力に対しまして、敬意を表したいと思います。加えて、さらなる健全化のため、一般社団法人遊技産業健全化推進機構への支援をはじめとした不正防止対策、ばちんこ依存問題相談機関・特定非営利活動法人リカバリーサポート・ネットワークへの支援等の、めり込み問題防止対策、児童車内放置事案の防止対策についても、積極的に進めておられるところであり、私どもとしても大変心強く感じています。また、昨年の東日本大震災に際しては、被災地支援策として業界を挙げて義援金拠出等にご尽力等されるなど、ばちんこ営業に対する社会的評

価の向上に努められました。ご臨席の14団体の皆様は、風営法の趣旨に思いを致し、手軽に安く安心して遊技を楽しむことができる環境の整備

をはじめとするばちんこが健全な大衆娯楽になるための取組みを業界一体となつて一層推進されることを期待しています。私どもと致しまして

は、引き続き、違法行為者への取締りを強化する等、ばちんこが健全な娯楽となるための施策をより一層推進して参りたいと考えています。

引き続き、西村直之代表理事(RSN)が、健全化のためまぬ努力で国民の悪い場の提供を託した祝辞を述べた。

○西村代表の祝辞

昨年の思いもかけない3・11。東日本大震災の発生以後は、ばちんこ依存問題の活動と震災サポートという精神科医としての取組みであつと言う間だった。震災の影響は、ばちんこ依存問題の電話相談にも影響が出た。節電の影響等によって、関東地域からの相談が少なくなった。貸金業法の改正の影響もあつて、多重債務による問題相談がかなり減つてきていた。私どもへの相談が減るといふことは、皆様方から支援を受けているという立場では、困るのですが、依存問題が減つていく傾向は大変に喜ばしいこと。ひとつひとつよい方向に行っているのだという思いでの昨年末だった。今年、相談件数ももとに戻りました。1月は1000件を超えた。例年冬場は、相談件数が少ない傾向であり、この1月の件数をどう見ればよいだろうか。いろいろ大変な事があつた時、多くの方がホールに足を運ばれるのではないだろうか。そういう社会的な役割をパチンコホールは担っている。私たちRSNに相談されているのは、問題をかかえている百人にひとり、あるいは千人ひとりなのかでしょう。少し例年より相談数が減少傾向にあるとはいへ、年間の相談件数は、千件を超える状況です。ですから、お



業界14団体が一同に壇上に整列した

そらく問題を抱えている方は、それでもなお、数万人いると推測されます。多くの方が遊べるということ、どんなに状況が変わっていついていっても、問題を持つ人は出てきてしまう。千人にひとり、あるいは1万人にひとりなのかは、わかりませんが、そんな問題を持つ方々に対して、優しい業界であり続けていたいただきたい。業界に対する風当たりがあるかもしれないですが、それでもなお1700万人規模のファン参加人口があるということは、巨大な実績がある。問題を持つ方々はわずかもれないが、絶えず目を向けていたいただきたい。影の部分は、私たちRSNが支えていきます。昨年からは14団体を通じて、支援をいただくことになりました。いろいろな見方、考え方があつた中で、私たちのできることをさらに取り組んでいきたい。娯楽の王者として健全に発展させることを祈念しています。

深谷会長(日遊協)の乾杯の音頭により、新年と業界の発展、被災地への復興支援に思いを込め杯を掲げた。祝賀会の歓談の中、明るい話題として、原田理事長(全日遊連)の藍綬褒章の報をあらためて紹介。原田理事長(全日遊連)は、壇上へ上がり、
「平成23年秋の褒章において、藍綬褒章を受章しました。これは、ここにお集まりいただいた業界14団体の健全化への取組みがあるからこそ、改めて感謝を申し上げたい」と、報告。なお、3月に受章記念祝賀会を開催する。
そして、東日本大震災による被災地支援の継続した取り組みを再喚起するべく、秋山昭明理事長(岩手)、竹田隆理事長(宮城)、吉川永造理事長(福島)の3理事長が登壇。業界の支援の手に、岩手県遊協の秋山理事長が代表して謝辞を述べた。
○秋山理事長(岩手県遊協)の挨拶(要旨)
未曾有の大災害から10カ月余、まだ3千名余行方不明の方々がいます。パチンコ店におきましては、地域住民の方々の再開への要望などを受け、営業を再開できた店舗もありますが、地域によっては再建・再開できない店舗もあり、まだまだ時間が必要です。それでも一歩一歩前進することで、復興に努めています。



秋山理事長(岩手・中央)、竹田理事長(宮城・右)、吉川理事長(福島)の3理事長が支援の手に謝辞